

笑顔いっぱい 清里っ子

学校便り 第6号

文責 森山 資典
もりやま まさのり

6年生と修学旅行に行ってきました。11月17日(木)～18日(金)



3年分の平和の願いを込めた折り鶴を持って6年生と修学旅行に行ってきました。新型コロナウイルス感染症は、まだ終息していませんが、今年は、何とか長崎市と福岡市に1泊2日で行くことができました。6年生は、社会科や総合的な学習等で長崎の歴史と平和について、福岡市にあるキザニア福岡での職業体験について調べ学習をしてきました。

長崎では、77年前の1945年8月9日に、決して許されない原子爆弾の投下によって73884人の命が一瞬にして奪われ、74909人が負傷した事実を自分の目と耳で確認しました。まず、3歳の時に被爆された田中 安次郎さんの被爆体験を聴きました。爆風で割れたガラスが背中一面刺さるなどの大きな傷を負われたことや、その傷や原爆の後遺症で皮膚が化膿し、それを学校でからかわれ、悔しい思いをしたが、お母さんが悲しむのが嫌で家族には黙っていたことを語られました。また、被爆者とわかると差別をされるので、被爆したことを隠して生きてこられことも話されました。しかし、定年退職後、二度と戦争をしてはいけない、長崎のような被爆地をもう決してつくってはならないと思い、差別をのりこえて語り部として活動をされてこられたそうです。田中さんは、真剣に聴き入る6年生に、平和のバトンを渡したいと語られました。それは、被爆者の方々が、高齢化し、語り部の方々が亡くなっていかれる中で、日本が再び戦争をして、子どもたちが自分たちのようなめに遭わないように、そして、日本だけでなく、世界が平和であるために、原爆・核兵器の惨たらしさと戦争の愚かさを伝えていくメッセンジャーになってほしいという願いの語りだったと思います。6年生の子どもたちは、その願いをしっかりと受け取ってくれたと感じました。その後、長崎原爆資料館を見学し、ボランティアガイドの方々と永井隆記念館や如己堂、山里小学校等の平和のフィールドワークをし、目で見ると平和学習をしました。そして、平和公園の平和祈念像の前で不戦の誓いと恒久平和を誓う平和集会をしました。持参した平和の折り鶴を捧げ、みんなで平和を誓う構成詩を朗読し、「青い空」を合唱しました。6年生の子どもたちは、これまでの学習と田中さんの講話や見学した多くのものを一人ひとりが朗読や歌に込めて表現しました。田中さんをはじめとする戦争体験者からの平和のバトンを確かに受け継いだ、平和のメッセンジャーの姿がそこにありました。私は、私も子どもたちとともに平和のバトンを受け継ぎ、たとえ困難な状況であろうとも平和のメッセンジャーとして恒久平和のために自分にできることをやっていきたいとあらためて決心しました。

平和集会を終え、夕暮れの綺麗な長崎市内をバスで移動してグラバー園に行きました。グラバー園は、幕末に建てられた洋風建築の豪邸で、イギリス商人のトーマス・グラバーが居住していたところです。そこから見る夕暮れ時の長崎港と長崎市内は、街の灯りが宝石のように美しく、ロマンチックで、幕末から明治時代の歴史と現代の美の融合したとても素敵な風景でした。その後、宿舎のホテル矢太楼へ向かいました。ホテルに着くとおいしい夕食をみんなで楽しくいただき、その後、私も男子と一緒に風呂に入りました。子どもたちと楽しい会話ができとてもうれしかったです。就寝は、班ごとに部屋に分かれて、みんな以外と早く眠りについたと思います。子どもたちにとって思い出の夜を過ごすことができたと思います。



グラバー園からの夜景

二日目は、清里小学校の修学旅行では初の試みで、福岡市にあるキザニア福岡で職業体験学習をしました。キザニアは、国内に3ヶ所ある3歳から15歳までの子どもが、九州をはじめ



多くの企業が参画する約50種類のパビリオンで職業・社会体験ができる施設です。6年担任の西村先生が、子どもたちが楽しみながら職業体験ができるこの施設で、ぜひ将来の職業選択や夢につながる学習をさせたいと企画されたものです。航空会社のANAや久光製薬、九電工等の企業が、それぞれのブースで子どもが体験学習できるようにプログラムして実習させる内容になっていました。操縦席に座って飛行機を離陸させたり、

研究室で湿布薬を作ったり等の模擬職業体験をすることができました。子どもたちは事前に体験したい職業を選んで当日に臨みました。施設の名前の通り、子どもたちは楽しみながら実際に営業している企業の職業を複数体験することができました。6年生は、将来の職業の具体像を知ることができたと思います。この学びが、近い将来につながると思いました。

他にもたくさんの学びと絆を深めることができた修学旅行でした。この修学旅行に行けたのは、ご家族をはじめたくさんの方々のおかげです。子どもたちとともに心から感謝します。

荒尾市人権フェスティバルで4年生と5年生が発表しました。12月2日(土)

「人権の世紀」といわれる21世紀を迎えた今日、一人ひとりの人権を尊重し、部落問題をはじめとするあらゆる人権問題を市民とともに考え、「人権文化の花咲くまち」荒尾をつくるために荒尾市人権フェスティバルが、荒尾文化センターで開催され、本校から4年生と5年生が、一人ひとりの思いを込めて「わたしの宝物、みんなの宝物」を発表しました。本校の他に、小鳩幼稚園の合唱、緑ヶ丘小、荒尾四中が、ステージ発表を行い、「ネット社会をかしこく豊かに生きるため



に」と題した、元小学校校長の戸田 俊文 さんの講演がありました。どの発表もすばらしく、参観した人たちから感動と感謝の拍手がホール内に響き渡りました。講演された戸田さんは、これから生きる子どもたちが、ネット社会を生きていくために必要なスキルと倫理観を映像を交えながら私たちに教えてくださいました。本校の子どもたちもITC機器やスマホ・携帯、SNS等を使用しながら仕事や生活をしていくことは必須だと考えます。子どもたちが、ネット社会で被害者にも加害者にもなることなく、豊かに生きていくために講演で学んだことを家庭と学校で生かしていきたいと思います。

4年生と5年生の発表は、人権学習で学び合った荒尾市の人権学習「私にとって大切なもの」を構成詩にして全員で朗読し、一人ひとりが書いた「私の宝もの」の中から、4名が代表で読み上げ、清里小「みんなの宝もの」を全員で発表しました。発表の最後には、「いのちの歌」を合唱しました。人権学習「私にとって大切なもの」は、同じ荒尾市の有明小学校から始まった取組が、元になってできた人権教材です。約20年前、耳が不自由で補聴器を付けて有明小学校に通っていた子が、教室の机や椅子を引きずる時に出る音によって困っていることを学級の子どもたちが知り、その子の思いや苦しみを解決しようと幾度も話し合う中で、机や椅子にテニスボールを取り付けることで解決していった事実が教材化されたものです。4年生と5年生が合同で学習していく中で、その学級の当時の担任だった吉坂先生を招いて実際のお話を聴きました。学びの中で、今の「私」にとって、「清里小」にとって「たいせつなもの」は何かを一人ひとりが考え、作文で表現しました。その学習と、肥田先生の合唱指導と西村先生の妹さんのピアノ演奏で「いのちの歌」の合唱を人権フェスティバルで発表させていただきました。思いのこもった発表と優しさと澄みきった歌声は、ホールにいるすべての人を感動させてくれました。発表後に多くの方々から「感動した」「すばらしかった」と言っていました。子どもたちが発表した「命、家族、友だち、家、ランドセル等」一人ひとりの宝ものと清里小の宝ものをこれからもたいせつにして、清里小から今まで以上に荒尾市を「人権の花咲くまち」にしていきたいと思っています。